

東北大学医学部保健学科

同窓会新聞

発行人 菅原明
 発行所 東北大学医学部保健学科
 仙台市青葉区星陵町2の1
 編集人 東北大学医学部保健学科同窓会新聞編集委員会
 編集委員 長谷川大樹 平川奈津希 武石陽子

新同窓会会長のご挨拶

今年度から前任の進藤千代彦先生に代わり、菅原明先生が東北大学医学部保健学科同窓会会長に就任されました。ご挨拶を頂戴しましたのでご紹介いたします。

分子内分泌学分野 教授

菅原 明先生



本年4月から保健学科長を務めさせて頂いております分子内分泌学分野の菅原でございます。自己紹介ですが、小生は昭和62年の東北大学医学部卒で、本学第二内科(現:腎・高血圧・内分泌科)出身です。学位を本学第一化学教室にて岡本宏先生(現:東北大学名誉教授)のご指導を受けて取得した後、ボストンのBrigham & Women's Hospital (BWH)でホルモン核内受容体の研究を行いました。その後、本学総合診療部、本学先端再生生命科学寄附講座、宮城県立がんセンターを経て、

2011年から保健学科の検査技術科学専攻でお世話になっております。専門は内科学・内分泌代謝学・腎高血圧学でございます。現在、医学ならびに医療は著しいスピードで進歩しておりますが、両者が相乗効果を生んで新しい診断法・治療法の開発が続々と進んでいます。例えば、小生が留学していた時期(1994年)に同じBWHで腎臓のナトリウム・グルコース共役輸送体(SGLT2)がクローニングされましたが、

現在その機能を抑制するSGLT2阻害薬が糖尿病の新規治療薬として脚光を浴びています。このように、基礎研究の成果がすぐに臨床で応用される時代となつてきておりますので、東北大学が指定国立大学に採択されたこともあり、保健学科でもこれまで以上に基礎研究・臨床研究を充実させることが必要であると考えます。その一方で、本邦は急速に少子高齢化社会を迎えていることから、患者さんに優しい医療・寄り添う医療が求められております。従いまして、保健学科の学部教育では、最先端の医学・医療の知識・手技の習得に加えて、患者さんを思いやることのできる豊かな人間性の涵養もこれまで以上に充実させて行きたいと思っております。また、東北大学では教育・研究の国際化の取り組みが今後さらに加速・推進されると想定されますが、保健学科においても英語教育の充実や外国人教員の雇用などで対応

新任の先生のご挨拶

今年度に入り、新たに10名の先生が本学科に就任されました。ご挨拶を頂戴しましたので、ご紹介いたします。

地域ケアシステム看護学分野 講師

津野 陽子先生



平成29年4月より地域ケアシステム看護学分野の講師として着任しました津野と申します。大学卒業後そのまま大学院に進学しましたが、途中休学し産業保健師としての勤務

経験があります。博士課程修了後は、民間企業のシンクタンクで研究員として調査研究事業に従事し、その後、東邦大学看護学部地域看護学研究室、東京大学政策ビジョン研究センター健康経営研究ユニットを経て、現職となりました。研究テーマは一貫して産業保健、健康政策です。

2013年から本格的に健康経営研究に取り組んでおり、平たく言うと「ホワイト企業のつくり方」を研究しています。ブラック企業の対極をなす、従業員の健康問題を経営課題と捉えて積極的に健康投資を行う企業です。健保組合の健診・レセプトデータと企業の人事・労務管理データを統合して分析し、健康課題を可視化し、介入施策の検討・評価することを企業・健保組合と共同研究で取り組んでいます。

皆様どうぞご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

老年・在宅看護学分野 助教

安藤 千晶先生



昨年12月に老年・在宅看護学分野助教に就任致しました安藤千晶です。父は福島県郡山市の出身ですが私は関東で育ちました。聖路加看護大学(基礎看護学)・文京学院大学(老年看護学)での教員生活を経て本学に着任致しました。専門領域は老年看護学ですが、長老であった祖父と

の関係性からこの分野を志すようになりました。

超高齢社会が加速するこれからの10年は、老年・在宅看護学分野の踏ん張り時だと考えております。前任の先生方が築いてこられたことを大切にしながら、激動の時代を乗り越えることができる老年看護学を築いていきたいと考えております。また在宅看護学は「暮らし」が軸ですので、まずは自身が日々の生活の中で東北の文化に馴染んでいくことが大切だと考えております。不慣れな点も多いかと思いますが御力添えを頂きますと大変有り難く存じます。どうぞ宜しくお願い致します。

公衆衛生看護学分野 助手

中野 久美子先生



5月に公衆衛生看護学分野の助手として着任いたしました。私は大阪の高校を卒業後、米国で社会開発学、公衆衛生学、看護学を学びました。米国に留学したのは国際協力の道を目指していたからです。臨床経験はUCLA大病院の病棟で働いた4年間です。本邦帰国後は主にアフリカで感染症対策や母子保健のJAI CA事業等に携わりました。直近は日本の財団で、在宅医療の要である訪問看護師を育てる起業家看護師育成研修事業を担当しました。管理・分業化が行き届いた米国の病院、土埃の途上国のヘルスセン

がん看護学分野 助手

齋藤 麻美先生



平成29年5月からがん看護学分野の助手として着任いたしました齋藤麻美と申します。出身は山形で、地元の大学を卒業後がん専門病院に就職し、消化器外科病棟と緩和ケア病棟で看護師として約8年間勤めておりました。1年程海外に行っておりましたが、帰国後ご縁があつて現在に至っております。

私が、がん看護に興味を持ったきっかけは、大学のときの臨地実習での患者さんとの出会いでした。その患者さんとの関わりや卒業研究で患者会の方たちと関わらせてもらう機会

があり、がんを抱えながらも力強く生きていく姿に感動したことを覚えています。そして自分もその人らしく生きることを支えられるような看護師になりたいと思いました。看護師になってからも多くの忘れられない出会いと別れがあり、そして毎日が学びの連続でした。学生の皆さんも実習を通して、そして看護師として臨床に出てからも、生涯忘れられないような患者さんとの出会いがあると思います。皆さんの実習が実り多い素敵な実習になるよう、一緒に感じ、共に学び合っていけたらと思っております。至らない点も多いかと思いますが、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

地域保健看護学分野

助手 渡邊 智子先生



平成 29 年 4 月より地域保健学分野の助手に就任いたしました。

私は、九州大学医学部保健学科卒業後、社会科学系大学院である神戸大学大学院国際協力研究科、人文社会科学系大学院である大阪大学大学院人間科学研究科にて国際保健医療学を学び、エイズ政策について研究してきました。その後、筑波大学で研究員としてアジアの高齢化について研究し、同時に、保健師として乳幼児健診へ携わる機会をいただきました。アジアやアフリカでのフィールド

ドワークを通じて、人とのつながりや地域の魅力を感じています。東北大学では学生の皆さんに、地域保健や国際保健に興味を持っていただき、学際的な学びのお手伝いのできたらいいと思います。教員一年目で至らない点も多いとは思いますが、どうぞ、宜しくお願いたします。

小児看護学分野

助手 入江 亘先生



4 月より小児看護学分野に就任いたしました。私は本学の 3 期卒業生です。母校で後輩の教育に携われる喜びを実感すると同時に、研究者・教育者としてさらなる努力の必要性を日々痛感しております。学部卒業後は東京の聖路加国際病院で 4 年間看護師として勤務したのち、本学博士前期課程を修了しました。仙台は学部生活と合わせて今年で 9 年目になり、第 2 のふるさとと呼べるくらい親しみのあるまちになっています。大学には幸いにも、3 期生の同級生や博士前期課程の同級生が教員として働いており、小さなことも相談できる安心感のなかで働くことができていると思います。研究では、小児がんの子どもをもつ家族の長期的アウトカムとしてレジリエンスや心的外傷後成長といった概念に着目し、研究に取

り組んでいます。東北大学病院は全国 15 施設ある小児がん拠点病院の東北唯一の指定病院です。職場の間も研究も恵まれた環境のなかで、自分に課された役割を邁進していきたいと思えます。ご指導・ご鞭撻をどうぞよろしくお願い申し上げます。

緩和ケア看護学分野

助手 五十嵐 尚子先生

五十嵐先生のご紹介は、本年度の保健学科同窓会総会の帰朝報告の記事で振り替えさせていただきました。4 ページの五十嵐先生の帰朝報告の記事をご覧ください。

臨床生理検査学分野 教授

三浦 昌人先生

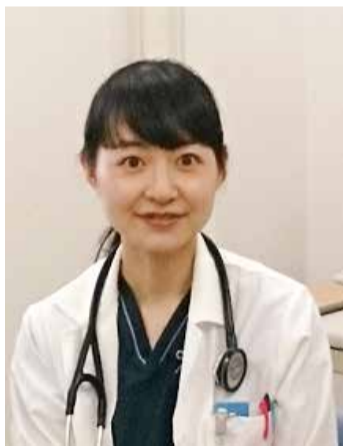


平成 29 年 4 月から臨床生理検査学分野の教授を拝命致しました三浦昌人です。私は保健学科の一期生から講義や実習に携わっておりますので、特に検査の卒業生には馴染みがあるかと思いますが、あつという間に 10 年が過ぎました。これまで心臓関係の講義に加えてラットを用いたカルシウム波と不整脈の研究を行って参りましたが、最近少し手を広げて遺伝子組み換えマウスを用いた研究も行っております。不整脈による心臓突然死を減らすべく、その機序の解明に努めておりますが、

我が国だけでも実に年間に約 6 万人の人が心臓突然死で命を落としていると言われております。卒業生の皆様にも日々の診療の中からさまざま疾患に潜んでいる何らかの糸口を探して頂き、直接あるいは間接的に新たな治療法の開発に貢献して頂ければと思います。私はまだしばらく保健学科に在ることになりました。今後、微力ながら皆様と一緒に医学の進歩に力を尽くして参りたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。

臨床生理検査学分野 助教

佐藤 遥先生



平成 29 年 4 月より臨床生理検査学分野に助教として着任いたしました。平成 23 年本学医学部医学科を卒業し、初期研修・後期研修を経て、平成 26 年に医学系研究科循環器内科学分野へ大学院生として入局いたしました。難治性疾患である肺高血圧症及び画像診断に興味を持っておりましたので、実臨床に触れながら臨床研究を通して博士課程を修了いたしました。

近年、循環器領域だけではない多分野において画像診断の技術が進歩しておりますが、生理検査は簡便でありながらも生理学に則して病態を反映しますので、これからの重要な分野だと考えております。実臨床で

の経験を活かし、学生の皆さんと生長していけたら幸いです。不慣れた点が多い身分ではございますが、御指導・御鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

画像解析学分野 助教

佐藤 和弘先生



4 月より画像解析学分野に助教として着任いたしました。3 月までは診療放射線技師として東北大学病院に勤務してまいりました。在職中に大学院へ進学し、X 線 CT の画像の質を向上させる処理（画質改善処理）に関する研究を行ってきました。画質改善のためには画像の成り立ち（画像再構成）や、改善処理の内容を知らなければなりません。大学院で画像再構成の本質について多くの知識が得られたのは、研究の面だけではなく日常業務の面でも貴重なことでした。

最近の CT 装置は性能の向上がめざましく、同時に画質改善処理も進化しています。よって、画質改善処理は研究テーマの宝庫とも言えます。また、画質を改善することは被曝の低減にも関連します。CT 検査の被曝が問題として頻繁に取り上げられています。少しでも被曝低減につながるよう、これからの CT 画像の

改善処理について取り組んで行く所存です。

これからお世話になる機会が多々あると思えます。今後とも、どうぞよろしくお願いたします。

オープンキャンパス

今年は 7 月 25、26 日に、オープンキャンパスが開催されました。今年も星陵キャンパスには多くの高校生やその保護者が来場されました。実行委員の皆さんは、学部生・大学院生・教員と、多くの人たちを動かし、オープンキャンパスを大成功に収めました。実行委員長より、今年のオープンキャンパス当日の様子や感想を伺いましたので、ご紹介いたします。



**実行委員長
放射線検査学分野
博士前期課程 1 年**

石井 浩生

医学部・医学系研究科オープンキャンパスでは、本学部・研究科を志望する方を主な対象とし、専攻ごとに



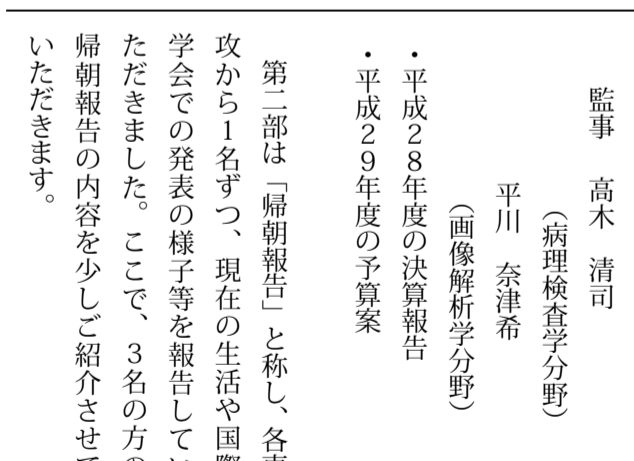
医学部・医学系研究科オープンキャンパスでは、本学部・研究科を志望する方を主な対象とし、専攻ごとに教育及び研究内容や大学生活全般を幅広く紹介しました。放射線技術科学専攻で行った企画について少しお話しします。メインの企画であるツアーは、研究室やCT、MRIを一時間程度で見学するもので、連日朝早くから大盛況でした。普段は立ち入り制限されている管理区域も特別に開放しました。今年はツアーの誘導



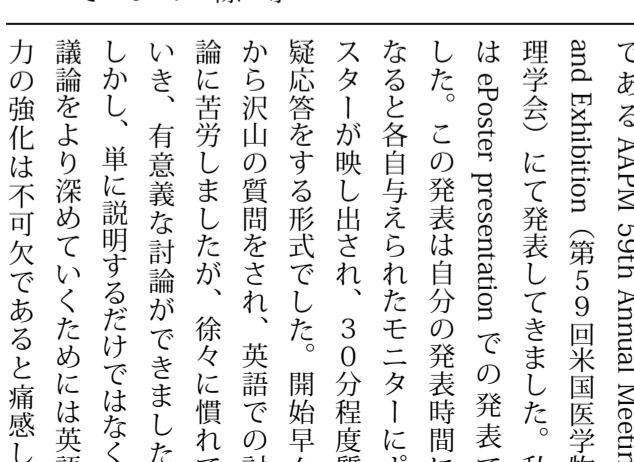
を15分毎に一班ずつ出発する方式に変更したことで、効率良く案内できたのではないかと思います。模擬講義では、画像工学分野の小山内実先生と画像解析学分野の佐藤和宏先生から、専門分野に関する講演をいただきました。デモンストレーションコーナーでは、サーベイメータを用いた放射線測定と超音波検査の実演を行いました。各種相談コーナーでは、各々の経験を生かして、受験



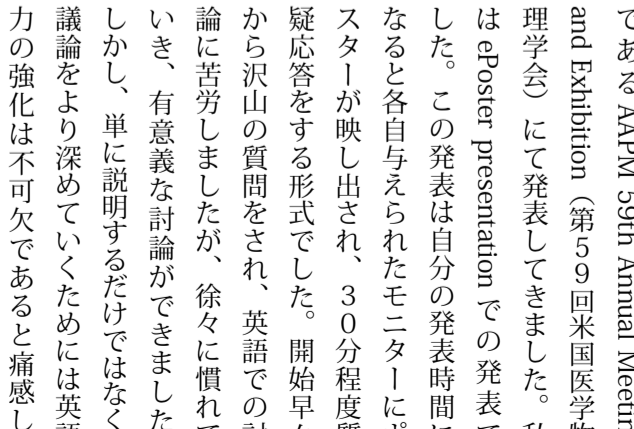
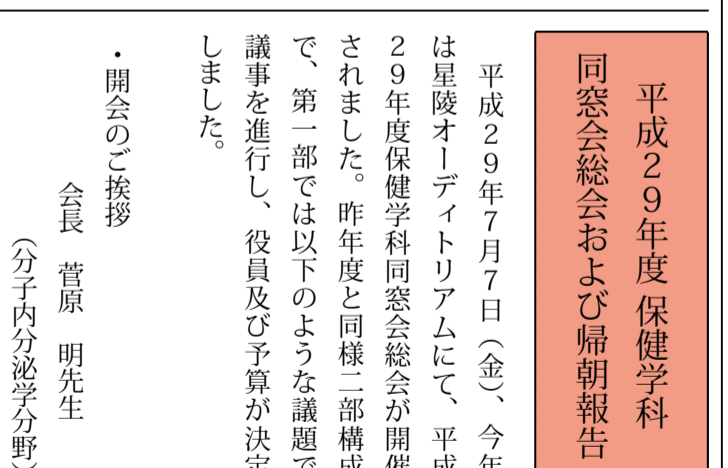
勉強や大学生活に関するアドバイスを行いました。オープンキャンパスの参加者の中には、放射線診断医を目指したいと話す、高い志を持った高校生も見受けられました。企画を通して、放射線技術科学領域の面白さや東北大学での学修の楽しさを伝えることで、高校生の興味に伝えることができたならば、非常に有意義な2日間であったと思います。



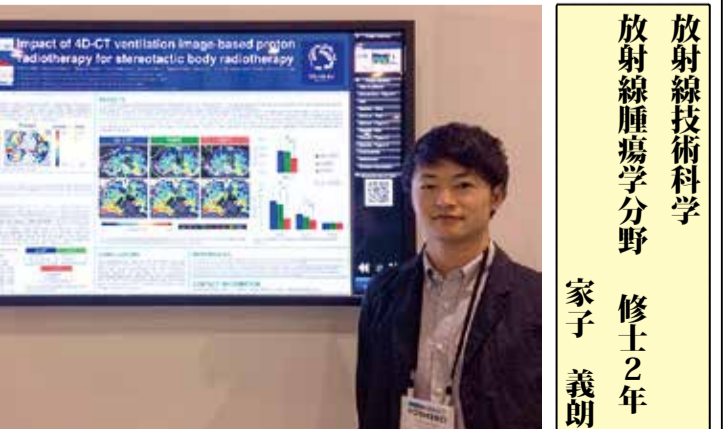
今年度の医学部・医学系研究科への来場者数は約5,800名となりました。勉強や大学生活に関するアドバイスを行いました。オープンキャンパスの参加者の中には、放射線診断医を目指したいと話す、高い志を持った高校生も見受けられました。企画を通して、放射線技術科学領域の面白さや東北大学での学修の楽しさを伝えることで、高校生の興味に伝えることができたならば、非常に有意義な2日間であったと思います。



た。東北大学オープンキャンパスは、全国の大学の中でもトップクラスの来場者数を誇ります。来年度もまた、一人でも多くの来場者に東北大学の魅力を肌で感じてもらうため、本学部・研究科が丸ごとになってオープンキャンパスを盛り上げることができるよう願っております。



最後にになりましたが、学部生や大学院生を始め、教員、卒業生、教務係の職員の皆様にはオープンキャンパスの運営のためにご尽力頂き、心より御礼を申し上げます。



平成29年度保健学科
同窓会総会および帰朝報告

平成29年7月7日(金)、今年度は星陵オーデトリウムにて、平成29年度保健学科同窓会総会が開催されました。昨年度と同様二部構成で、第一部では以下のような議題で議事を進行し、役員及び予算が決定しました。

・開会のご挨拶

会長 菅原 明先生
(分子内分泌学分野)

・議長 家子 義朗
(放射線腫瘍学分野)

副議長 島田 洋樹
(分子内分泌学分野)

・保健学科同窓会新役員人事の件

会長 菅原 明先生

副会長 村崎晶洋(東北大学病院)
長谷川 大樹
(臨床生理検査学分野)

武石 陽子
(ウイメンズヘルス看護学分野)

幹事 佐藤 あかり
(公衆衛生看護学分野)

監事 高木 清司
(病理検査学分野)

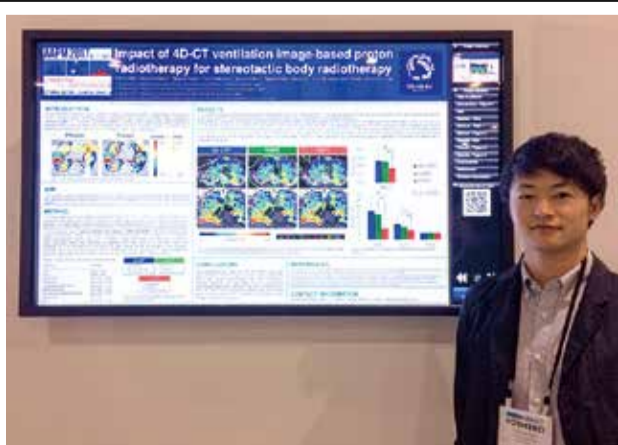
平川 奈津希
(画像解析学分野)

・平成28年度の決算報告

・平成29年度の予算案

第二部は「帰朝報告」と称し、各専攻から1名ずつ、現在の生活や国際学会での発表の様子等を報告していただきました。ここで、3名の方の帰朝報告の内容を少しご紹介させていただきます。

放射線技術科学
放射線腫瘍学分野 修士2年
家子 義朗



私は保健学科を卒業後、医科学専攻の放射線腫瘍学分野(医学物理士養成コース)の修士課程に進学し、医学物理士の臨床トレーニングを行いながら、4次元CTに基づいた肺換気能画像に関する研究をしています。

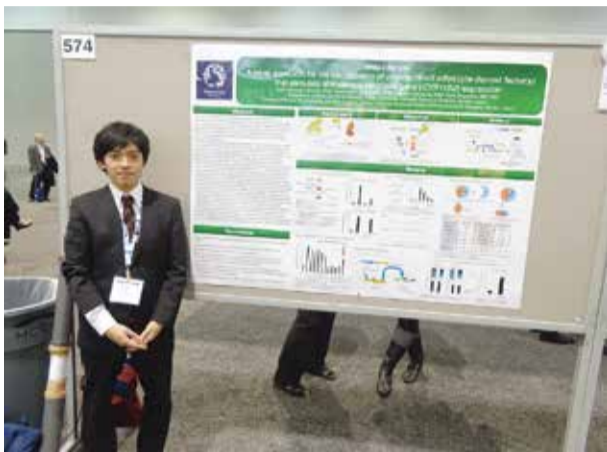
2017年7月30日から8月3日までコロラド州デンバーで開催された世界最大規模の医学物理学大会であるAAPM 59th Annual Meeting and Exhibition (第59回国際医学物理学会)にて発表してきました。私はePoster presentationでの発表でした。この発表は自分の発表時間になると各自与えられたモニターにポスターが映し出され、30分程度質疑応答をする形式でした。開始早々から沢山の質問をされ、英語での討論に苦労しましたが、徐々に慣れていき、有意義な討論ができました。しかし、単に説明するだけではなく、議論をより深めていくためには英語力の強化は不可欠であると痛感し、



今後努力していきたいといします。
最後に、国際学会での発表の機会を与えてくださいました神宮先生、日頃からご指導していただきありがとうございます。まず角谷先生はじめ研究室の皆様、放射線治療学分野の武田先生、土橋先生にこの場をお借りして深く感謝申し上げます。ありがとうございます。



検査技術科学
分子内分泌学分野 博士2年
島田 洋樹



私は平成25年度に東北大学の検査技術科学専攻を卒業し、現在は大学院の保健学専攻にて研究を行っております。この度、平成28年4月1日〜4日にアメリカで行われた「アメリカ内分泌学会 (Endo2016)」及びサテライト学会である「国際アルドステロンカンファレンス」にて研究成果を報告する機会がありましたので帰朝報告をさせていただきます。
アメリカ内分泌学会は内分泌分野では世界最大規模の学会です。毎年早春に開催され、2016年はボストンで行われました。ボストンはハーバード大学やMITを始めとして多くの大学がある学術都市で、食べ物やシールドが有名です。冬は寒く、私が滞在していた頃でも、夜は雪が降っていました。私見ですが、どこことなく仙台を思い出させる街で親近感が湧きました。
アメリカ内分泌学会に先んじて行われた国際アルドステロンカンファ

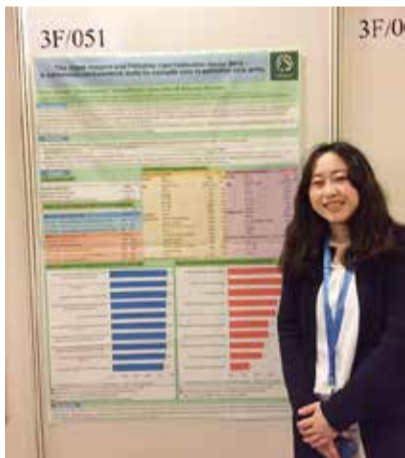


レンスは、決して大規模の学会ではありませんが、その分専門性の高い議論が交わされます。初めての英語での口頭発表ということもあり、発表後の Discussion においては英語力の欠如から非常に悔いが残りました。ですが、この経験のおかげかアメリカ内分泌学会では落ち着いて発表ができたように感じます。今回の経験により、英語はあくまでツールであり研究能力以前に必要なものだと痛感しました。また、先進的、独創的な研究も多く発表されており、自身も刺激を受けつつ、世界の内分泌研究の潮流を肌で感じる事が出来た良い機会となりました。



最後となりましたが、アメリカ内分泌学会のような大規模な学会での発表機会を与えて下さった、菅原教授、及び分子内分泌学分野の皆様には感謝したいと思います。

看護学
緩和ケア看護学分野 助手
五十嵐 尚子先生



先日、平成29年度保健学科同窓会にて、僭越ではありますが帰朝報告をさせていただきます。私は平成24年度に保健学科を卒業後、東北大学の消化器内科に看護師として勤めました。その後、平成27年度に博士前期課程に進学し、現在は保健学科緩和ケア看護学分野で助手として勤めております。研究としては、終末期における緩和ケアの質の評価や死別後の遺族のメンタルヘルスについての調査を遺族の方を対象に行っております。博士前期課程2年生の時に参加した The 20th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) について帰朝報告いたしました。EAFONSとは東アジアで年1回開催されている看護系大学の博士課程修了生、大学院学生、若手研究者を対象とする国際フォーラムです。大学院生を対象としている事、アジアの国際学会と



いうことで、国際学会デビューとしてポスター発表を行いました。海外の方の発表はとても勉強になりました。また、日本の学会での口演よりも座長の先生や会場の雰囲気はフランクでとても興味深かったです。自身のポスター発表では、質疑応答で英語での応答が上手くできず、英語力向上の必要性を強く感じました。今回、EAFONSを通して、英語の勉強だけでなく、研究へのモチベーションに繋がることを感じましたので、ぜひ他の学生の皆さんにも積極的に国際学会への参加をしてもらいたいと思います。今回は貴重な場をいただきありがとうございます。



お知らせ

◆保健学科同窓会について
東北大学校友会(しゅうゆうかい)は、創立100周年を迎えた2007年に次の大学づくりの礎として東北大学校友会として発足しました。同窓生に加えて、現職の教職員や在校生とその家族など、東北大学の関係者が会員となっており、部局別同窓会・登録同窓会・年次別同窓会の3つの基礎同窓会から構成され、本会運営の基礎単位となっております。この度、部局別同窓会(学部、研究科、附置研究所等の別により組織される同窓会のこと)に医学部保健学科同窓会が入会しましたので、お知らせ致します。
お知らせ致します。
(部局別同窓会一覧URL：
<http://www.bureau.tohoku.ac.jp/alumni/alumni.html#contents02>)

保健学科同窓会では、卒業生の皆さんの情報を名簿として管理しています。結婚等による氏名変更や住所変更があった場合には、下記アドレスまでご連絡ください。
hoken@alumni.med.tohoku.ac.jp

編集後記

第18号も皆様のご協力の下、無事に発行することができました。オープンキャンパスの写真には、写真部の保健学科の学生さんのものと、編集の平川さんのものを使用させていただきました。
写真を提供していただいた学生さんを始め、作成に関わっていただいた先生方、学生の皆さんに感謝いたします。
長谷川大樹、平川奈津希、武石陽子